



第26号

東稲ニュース

早稲田大学東久留米稲門会

平成18年1月10日発行

発行責任者 帆角 信美

編集責任者 井坂 宏

<http://homepage2.nifty.com/35292/>

新年ご挨拶

東久留米稲門会会長 帆角信美

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の早稲田のスポーツは往年の力を取り戻し、華々しい活躍を見せてくれました。特にラグビーでは対抗戦で宿敵慶応、明治を一蹴し、史上初の5年連続全勝を達成しました。東京六大学野球でも早稲田は秋季では法政に優勝をさらわれたものの、春季には慶応を破って優勝しました。早稲田のこのところの強さに、早稲田があまりにも強いと学生スポーツが衰退してしまうのではないかと本気で心配している教授まで出てきました。それはともかく、応援する側からみると、早稲田が勝つのは実に爽快で楽しいのですから、これからもどしどし勝ち続けてもらいたいものです。

ところで、いま日本は少子高齢社会に入り、高齢者の人口が年々増えていきます。我が稲門会はどうなのかと年齢構成を調べてみました。会員の皆様の生年月日はわかりませんので、卒業年次から推計した数字ではありますが、70代が43%、60代が30%を占め、この2つの世代だけで73%を占めています。この数字だけをみれば、我が稲門会はまさに高齢社会の典型ともいえるでしょう。しかし、会の運営に携わっている幹事の年齢構成はどうでしょう—70代が19%、60代が42%とかなり若くなるとともに、50代、40代がぐんと増えます。しかも60代以下の幹事には、現役でばりばり仕事をしている人や現役を引いたばかりの人が多く、実社会の生の情報をたくさん身につけています。さらに当会は早稲田大学という、それこそ若者で満ち溢れたキャンパスと太いパイプでつながれ、そのパイプを通して新鮮な情報がどんどんと入ってきています。

我が稲門会はこのように生の情報、新鮮な情報に満ちています。我が稲門会は数字から見れば確かに高齢者の多い組織ではありますが、決して閉鎖的で内向きな組織ではなく、開放的で外向きでかつ若々しくて活気に溢れた組織なのだと思います。こういう組織はおそらく全国でも数少なく、他にあまり類例を見ない団体といえるでしょう。極端に言えば、世にも不思議な集団だと言ってもいいのかもしれない。

私は、このような視点に立って我が稲門会の組織や運営のあり方などを考えてみて、役員や部会長、関係者の方々のご協力を得て、会員の皆様のためにこれからも微力を尽くしてまいりたいと思っています。

本年も昨年同様のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成18年元旦

会の告知板

- | | | | |
|----------|-------------|---------------------------------|----------|
| 1月21日(土) | 18:00~20:00 | 東久留米稲門会新年会 | 成美教育文化会館 |
| | | 初めての方も是非出席してください。新しい出会いが待っています。 | |
| 2月5日(日) | 13:30~ | 役員会議 | 成美教育文化会館 |
| 2月24日(金) | 14:00~ | 映画鑑賞会 | 市民プラザ |
| | | 題名「陽のあたる場所」 | |
| 4月9日(日) | 平成18年度定時総会 | | |

14:00～	文化講演会	成美文化会館ギャラリー
講演者	歴史旅行作家 伊佐九三四郎氏	
15:30～	総会	成美文化会館ギャラリー
17:00～	親睦会	成美文化会館大研修室

[大学・校友会関係]

- 早稲田大学創立125周年記念事業募金
平成17年分として集まった119人分238,000円を11月19日森田会計幹事が大学に持参した。各人に領収書が大学より郵送された。
- 校友会費納入促進
11月10日発行の東稲ニュース配布時に校友会入会申込書を同封した。

[広報関係]

- 「杜の西北」の新体制
「杜の西北」の編集長が国米会員から比護会員にバトンタッチされた。
平成18年は5～6月に発行し、19年以降は3月に発行することとなった。
- 「東稲ニュース」は前回報告したとおり編集長が比護会員から井坂会員にバトンタッチされている。
編集委員は引き続き、菱山、松崎、神田、鮎貝、森田、平山、河村の各会員が担当することになった。
- 「ホームページ」は平成18年も引き続き松崎会員が担当する。
後継者の育成が急務となっている。

[会の報告]

- 第18回東久留米稲門会講演会が開催された
12月4日(日)中央公民館第一、第二学習室で開催された。講師は本会会員米光慶二郎氏(35文)。演題「松本清張の世界」。自ら作成した詳細な資料をもとに、清張の少年時代から懸賞小説を書き、芥川賞受賞を経て推理小説作家として大成し、最後は時代史への挑戦を続けたことを興味深く話され、40名ほどの出席者が熱心に聴講した。
- 平成17年役員及び各部会長による忘年会を開催した
12月4日役員会、講演会に引き続き、17時30分から「志乃」で開催。
部会長3名を含む22名が参加し盛会裏に一年を締めくくった。



○ウォーキングを楽しむ会

12月23日、第15回ウォーキングを楽しむ会を実施した。護国寺から雑司が谷鬼子母神を経て早稲田キャンパスへ。次回は2月11日(土:建国記念日)に向島百花園を予定。

○カラオケを楽しむ会

平成17年12月26日(月)、シダックス滝山にて第5回カラオケを楽しむ会が開催された。寒風にもかかわらずカラオケに熱い気持ちをもった15人の会員が参加し、それぞれの持ち歌を披露、学生時代から現在まで約半世紀の歴史を歌のなかで体感し、また談笑した。

カラオケに対しては個々人により考え方はあると思いますが、多くの方はストレスを解消するため歌を通して自分の世界に陶醉し、自己主張をできると考えていると思います。他人の目を気にしては歌をうたえません。

3時間はあっという間に過ぎリクエストも多数あったので、9時からは1曲2番までとし、最後に「都の西北」で散会、4時間は短いもので未練を残された方も若干、次回開催を楽しみに。

(高橋哲男記)

[部会報告]

○女性サークル

2月13日(月)例会開催。

○散策山歩きの会

平成18年より部会長安次峰、サブ森田、アドバイザー川上各会員で新発足。

11月20日(日)川上部会長最後の企画による高尾山ハイキング。17名参加。

(別途報告あり)

○ゴルフ部会

12月2日(金)熊谷GCで部会開催。10名参加。優勝太田会員、準優勝村野会員。

伊東幹事をゴルフ部の事務局に据え若手の参入、部会の活性化を図ることとした。(別途報告あり)

平成18年予定 3月下旬(平日) 稲門会

5月下旬(平日) 稲門・三田会対抗戦

10月下旬(平日) 稲門・三田会対抗戦

11月下旬(平日) 稲門会

○囲碁部会

11月26日(土)～27日(日)湯河原で合宿

湯河原ホテル城山で11名参加。苜草会員が優勝。(別途報告あり)

○俳句部会

12月23日(金)第69回句会及び忘年会を開催した。

平成17年は年8回句会を開催したが、平成18年からは毎月開催する予定。(別途報告あり)

○書道部会

11月2日(水)～6日(日)東久留米市民文化祭に9名参加。

11月25日(金)～27日(日)成美文化会館にて第三回作品展を開催。(別途報告あり)

12月11日(日)忘年会開催。

○太極拳部会

1月7日(土)「緒暮路」にて新年会開催。

○グルメ部会

11月19日(土)東村山の日本そば「はや川」で開催した。

はや川は10名定員のところ10名参加。内容も良く評判であった。(別途報告あり)

○郷土研究会

平成18年は年1～2回開催したい。地元の旧家めぐり、所沢に移設した村野邸(黄洲閣)、柳窪小麦を検討中。

〔平成 18 年度東久留米稲門会予定表〕

	会主催、大学、近隣	広 報	部 会
1月	21 (土) 新年会	HP改訂随時 10 (月) 東稲ニュース発行	8 (日) 書道部会、22 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、29 (日) 俳句部会
2月	5 (日) 役員会	HP改訂随時 24 (金) 映画 下旬総会案内送付	12 (日) 書道部会、26 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、11 (土) ウォーキング 18 (土) グルメ部会
3月		10 (金) 東稲ニュース発行 HP改訂随時	12 (日) 書道部会、26 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、下旬ゴルフ部会 19 (日) 俳句部会
4月	9 (日) 総会、文化講演会、懇親会	HP改訂随時	16 (日) 書道部会、23 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、2 (日) ウォーキング
5月		10 (水) 東稲ニュース発行 「杜の西北」発行 HP改訂随時	14 (日) 書道部会、28 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、27 (土) 早慶戦 23 (日) 山歩き部会、 21 (日) 俳句部会、下旬ゴルフWK戦
6月	4 (日) 役員会、講演会	HP改訂随時	11 (日) 書道部会、25 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、4 (日) ウォーキング 24 (土) グルメ部会
7月		10 (月) 東稲ニュース発行 HP改訂随時	9 (日) 書道部会、23 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、16 (日) 俳句部会 下旬カラオケ
8月	6 (日) 役員会	HP改訂随時	13 (日) 書道部会、27 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会
9月	9 (土) 納涼会	10 (日) 東稲ニュース発行 平日 映画 HP改訂随時	10 (日) 書道部会、24 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、17 (日) 俳句部会 6 (水) ~7 (木) 書道部錬成会
10月	1 (日) 役員会、講演会 14 (土) 小平総会 28 (土) 清瀬総会 22 (日) 稲門祭	HP改訂随時	8 (日) 書道部会、22 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、28 (土) 早慶戦 下旬ゴルフWK戦 9 (月) ウォーキング
11月	12 (日) 東村山総会	10 (金) 東稲ニュース発行 HP改訂随時	12 (日) 書道部会、26 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、19 (日) 山歩き部会 18 (土) グルメ部会 19 (日) 俳句部会 下旬ゴルフ部会
12月	3 (日) 役員会、講演会 忘年会	HP改訂随時	10 (日) 書道部会、24 (日) 囲碁部会 毎 (土) 太極拳部会、 23 (金) ウォーキング 下旬カラオケ

部会だより

散策山歩きの会

朝から好天に恵まれ、東久留米駅からと新宿線からとの二組が京王高尾山口で合流、総勢17名。今回は初めての試みで、徒歩グループとケーブルカー利用グループとに分かれて山頂をめざしました。(これがとても良かったと思います)

今年は地球温暖化の影響で紅葉も半分位でしたが、かなり混雑しておりました。

徒歩グループが頂上に着いたのは丁度お昼頃で、その混雑のなかを先着のケーブルカー利用グループを探そうと歩き出したとたんに幸運にもすぐ近くで合流できました。

昼食後登り同様二手に分かれて下山、電車にて予定通りに散会しました。

* 2006年度より山歩き会は川上さんの指導のもとで、森田さん、平山さんの助力をあおぐということで、川上さんから安次峰が部会長、森田さんがサブとして引き継ぐことになりました。

(安次峰暁記)

ゴルフ部会

12月2日(金)熊谷GCで10名参加のもと催されました。コースは関越道東松山ICを降りて約30分、荒川の河川敷内なので平坦ですが6300ヤードと距離もたっぷりあり本格的な林間コースでした。翌土曜日から寒波到来となりましたが当日は風もなく、暖かい絶好のゴルフ日和で大変ラッキーでした。太田さんがグロス86ネット72という素晴らしいスコアで優勝、2位村野さん、3位白石さん、4位上原さんと順当な成績でした。

表彰式は従来は一度帰宅後東久留米駅前に集まり本格的な宴会形式で行われていましたが今回は帰路、蕎麦屋で一時間程度で済ませ夕方6時台に帰宅できました。

本年度は2回の早慶戦を含め4回のコンペを実施、延べ42名(一回当たり平均11名弱)で参加者がやや少なくまたメンバーも固定気味だったので来年はもう少し工夫してより盛り上げていきたい(太田部会長)という話しになりました。

今回太田さんより沢山の協賛賞品をいただきありがとうございました。

(伊東 毅記)

囲碁部会

11月23日(水)に、早大新学生会館にて「稲穂会」が行われ、当部会から苧草氏が参加。決勝戦で現役の早大生と当たり惜敗準優勝となったが、これは特筆される成果である。今後もう少し参加者を増やしたい。

11月26日(土)から27日(日)にかけて恒例の合宿による囲碁大会を開催、11名参加、ランダムにA・Bの2組にわかれ、それぞれの最高成績者同士の対戦で優勝者を決めた。(三位も同方式による)。

結果は前年に続き苧草九段が優勝、2位は酒井初段、3位は小仁井七段となった。

宿は湯河原の「ホテル城山」というところで、料理(特に鰻のたたき)、風呂(露天風呂あり)ともに充実しており、夕食の宴はお酒もすすみ話も弾んで大いに盛り上がった。

12月25日(日)の例会終了後、東久留米駅前の「鮮之庄」で忘年会を行った。13名が参加、この一年をにぎにぎしく締めくくった。

(辰巳徳蔵記)

俳句部会

11月23日(水)第69回句会 西部地域センター

兼題 「冬はじめ (冬あさし・冬初め・初冬)」と当季雑詠

席題 「山茶花 (さざんか)」

高得点 4 点以上

竹筒に山茶花一枝道の神	三田 三 (畔巢)
余生なほ耐えることあり冬薔薇 (そうび)	太田 蔵之助 (千雪)
思い切り背筋伸ばして冬はじめ	河村 洋子
初冬や豆腐屋の朝湯気の中	安宅 武一

12 月 23 日 (金) 第 70 回句会 西部地域センター

兼題 「年用意」と当季雑詠 席題 「数の子」

高得点 3 点以上

嫁ぐ娘に妻の伝授の年用意	三田 三 (畔巢)
凍豆腐さらす信濃の深庇	太田 蔵之助 (千雪)
不器用に生きて年の瀬仕舞風呂	神田 尚計
数の子やひとりの孫を溺愛し	橘 正治 (雅契)

書道部会

書道部第三回作品展が終って

新年明けましておめでとうございます。

私達書道部は、昨年 11 月 25～27 日の 3 日間に亘って成美教育会館にて第三回作品展を行いました。70 数点に及ぶ自称“力作”が会場に燦燦と輝き 300 数名の来場者からは異口同音に“素晴らしい”(お世辞が大半かな)と賛辞を頂きました。

・作品の出来映えはともあれ部員一同が真摯な態度で書に臨み、練習に励み自己研鑽したその成果が作品に表れたことは確かであります。

個々人の作品の評価は紙面の都合で割愛しますが、全体的には古典を基本に忠実に、素直に、表現された優美な作品でした。自由課題は奔放にして、飛動の美、自由にして奇趣横溢な点が見られ、いずれも各自の個性が如実に表現されていました。

思えば、部員の殆んどが 6～7 年のキャリアでありながら、よくここまで、出来たものだと感嘆するばかりです。～やれば出来る、やる気があれば書ける、継続は力である～、との実感を今更ながら各部員が身をもって体験したものと思います。

1、書は手習いと言って手で習うもの、理屈ではなくひたすら書くこと (多書)

2、書の上達は多くの書を見て文字感覚を養いセンスを身に付けること (多見)

3、書は「我以外皆師也」の如く誰からでも学ぶ姿勢を持つこと (多聞)

この三つのことを忘れずに、何事にも通じる“守、破、離”即ち「守りを尽くして、破るとも、離るとても本(もと)を忘るな」の精神(基本姿勢)を部員一同が肝に銘じながら今回の作品展で、恥をかいた、その恥をバネとして次こそは、さらに良い作品と、自分の心を奮いたたせ、今後とも書に親しみ、書の芸術に挑戦し続けたいと願っている次第です。

最後になりましたが稲門会の皆様のご来駕、ご批評を賜りまして誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

(武藤 豊記)

グルメ部会

第 9 回グルメ探訪は 11 月 19 日、東村山駅から程近いそば屋「はや川」で開催。参加者は申し込み順の限定 10 名。これが精々という程の小さな店である。しかし、店内は如何にも本物の蕎麦屋に相応

しい構えで、壁は芯の藁を浮き出させた荒壁風、テーブルはどっしりとした無垢材、気取った装飾などはないところにこの店の蕎麦にたいするこだわりが垣間見える。生家が蕎麦屋だったという主人の早川さんは定年後、本物のそばの味を求めて修行と勉強を重ね、昨年ここに開店されたと聞く。

さて、当日の料理。まず蕎麦寿司、板わさ、だし巻の前菜。鴨のロースに新鮮な水菜のサラダ。そして、これぞ蕎麦屋ならではの杓子に載せた焼味噌。烏賊の丸干し。中に鶏肉と松の実を挟んだ蕪の酢のもの。海老、椎茸、茄子の天麩羅。茸とホウレン草のお浸しと続いたが、ひとまずこの辺で酒の報告を。日本酒は新潟の「緑川」。辛口である。口当たりの良い冷やでつい杯が重なる。焼酎は薩摩のその名もずばり「芋」、これがまたそば湯割りに良く合って何ともまろやかである。因みにこの店は徳利も杯もそば猪口も陶器である。

陶器の持つ素朴さと暖かさが蕎麦には合う。

そして本番のせいり蕎麦は二八である。この頃、十割蕎麦を時々見かけるが、蕎麦特有の香りと喉ごしはやはり二八に限ると早川さんは言う。細打ちで腰が強く、シャキッとした口あたりが抜群だ。料理の最後はこれも本格蕎麦屋の定番、殻を剥いた蕎麦の実の雑炊。

これで都合九品、手を変え品を変えて蕎麦の味覚の原点を堪能、満喫した午後でありました。足と舌を駆使して、こんな恰好な店を探し出してくれた神田部会長のご努力に感謝。

二八よし 蕎麦湯また佳し 仲間また

(三田 三記)



〈会員リレーエッセイ〉～噴水広場～

仏像よもやま話

大久保泰司 (30法)

去る十一月下旬、錦秋の古都を訪ねた。山深きゆえに気軽に行き難い古刹巡りである。行き先は古今より紅葉の名所として名高い。奈良は奈良市郊外の正暦寺など、京都は西山の勝持寺などである。その紅葉は評判通り赤、黄、橙と山容に溶け込んで素晴らしい。僕の目的はその紅葉に加えて今まで拝したことなき珍しい姿の仏像に会いたいとの熱い思いがあった。

正暦寺本尊は秘仏開扉の「薬師如来倚像」である。重要文化財で銅造28cmと小ぶりだが白鳳時代の逸品だ。丸顔で二重瞼の童顔で右肩をあらわにし台座に腰掛けている珍しさだ。正暦寺にはもう一体、これも貴重な「孔雀明王像」にお目にかかる。鎌倉時代の寄木造。孔雀は毒蛇の天敵であることから害敵から人びとを守護する仏なり。孔雀明王像はきわめて少なく、高野山金剛峰寺の彫像と共に双壁であろう。

翌日は京都西山へ行く。お目当ての勝持寺の本尊は「薬師如来座像」重要文化財で寄木造85cm鎌

倉時代だ。全体に漆箔してあり玉眼入り、左手の薬壺から右手で薬を摘みとる珍しい形である。その胎内から発見された「9 cmの薬師如来像」も重文で平安前期の檀像。精緻な彫りは素晴らしい。

さて仏像ファンになってからもう12年になる。リタイア後の楽しみとして奈良、京都を探訪してみようとの志ゆえに、早稲田オープンカレッジの仏教美術を受講したのがきっかけである。早稲田伝統の奈良美術を中心に仏像の魅力を諸先生から吹き込まれ、いまだに学び続ける程奥深い。ここで仏像のタイプの概略をご紹介します。

- 一、如来 如来とは悟りを得た仏の意味。釈迦、阿弥陀、薬師、大日など。
- 二、菩薩 如来に次ぐ位にあり衆生に利益し修行を重ね未来に悟りを開き成仏しようとするもの。観音、勢至、虚空蔵、地藏、文殊、普賢などあり、観音は聖観音、十一面、千手、不空罽索、如意輪、馬頭とその造像はすこぶる多い。
- 三、明王 如来の命令を受けて忿怒の相で衆生の煩惱を打ち破る諸尊のこと。不動明王はその代表で愛染、孔雀、降三世、金剛夜叉などがある。
- 四、天部 古代インドのバラモン教の神で仏教に取り入れられ仏教を護る役目を持つ。天上界にいるため天と命名。四天王、帝釈天、梵天、大黒天、吉祥天、弁天などが知られている。

このあまた数ある仏像で僕が一番好きなタイプは観音菩薩である。観音とは観世音の略。慈悲にとみ衆生の苦悩を除くといわれ古くから信仰された。

奈良時代から平安初期にかけての仏教説話集「日本霊異記」をいま学んでいるが、ここで既に観音の霊験が数多く説かれている。観音菩薩は三十三の姿に変えて人々を救うと法華経の謂ゆる観音経にその功德が説かれており、このため日本では三十三ヶ所観音霊場（秩父だけ三十四ヶ所）巡りなどこの菩薩には三十三という数字がついてまわるようになった。

観音というと女性をイメージする諸兄が多いかも知れないが外見はともかく男女の性別を超えた存在でなければならない。一般に仏像は性別なく中性なりという原則があります。唯、例外的に吉祥天、弁財天、鬼子母神などは女性とされます。

観音の中でも「十一面観音」が大好きだ。十一面観音とは頭部に十一の仏面をつける観音菩薩である。この仏面は化仏と呼ばれ衆生の十一の苦難を断ち悟りに導く功德を表している。正面の三面を慈悲の菩薩面、向かって左の三面を忿怒面、右三面を歯をむき出している牙上出面、後方一面が暴悪大笑面、頭頂に阿弥陀化仏をつけている。体にまとう衣や飾りも華麗である。

この十一面観音像の代表は琵琶湖の北部に在る『向源寺の国宝十一面観音』である。平安初期の檜の一木造で像高177 cmでわが国で最も美しく気品ある仏像と断言したい。その顔立ちは美しく体軀は軽く腰を左にひねり官能的量感豊か、安定感もあり均衡のとれた素晴らしい仏像である。

この観音像は井上靖の小説「星と祭」(琵琶湖で娘を亡くした父が琵琶湖周辺の村里に残る十一面観音を巡礼して歩く)で登場以来、絶大なる人気を博している。度重なる戦乱には里人が土中に隠すなど守りつづけてきたとの話には心打たれる。

十一面観音像は全国の国宝及び重要文化財指定で二百体ほどあるが国宝はたったの七体である。向源寺(滋賀)、観音寺・六波羅蜜寺(京都)、法華寺・聖林寺・室生寺(奈良)、道明寺(大阪)だ。

最後にわれら会津八一(秋艸道人)の仏像賛歌を掲げたい。

『さくはなの とはににほえる みほとけを まもりてひとの おいにけるかも』

(編集後記) ○新年明けましておめでとうございます。平成18年が会員およびご家族の皆様にとって良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。○昨年編集責任者を比護会員から引き継いで最初の東稲ニュースをお届けします。慣れないものですから試行錯誤の末こんな形になりました。至らないところはどしどしご意見を頂いてより良い、またより会員の皆様にとって読んで面白いものにしていきたいと考えていますので今後ともよろしくお願ひします。幸い編集企画会議も定期的に開催することになりましたので、編集委員一同知恵を絞ってより多くの皆様に参加できるような東稲ニュースにしていくつもりです。○今年は戌年。過去の例を見ると戌年は景気の変り目になることが多いらしい。株価も昨年一年で4割上昇したようだ。今年は是非目に見える形で景気の上昇を実感したいなどと考えています。(井坂)